

## 歯学部生の今

歯学科2年 菅 沼 雄 大

「歯学部生の今」ということで、今年度になって変わったことについて2つ書こうと思います。

1つは学習環境と学習内容の変化です。2年生へ進級して春から旭町キャンパスで学習することになりました。1年生の時は五十嵐キャンパスで学習し、教室も授業ごとにばらばらでしたが、旭町キャンパスでは学年ごとに教室が決まっております、同期と話す機会が増えました。去年までは全員と一緒に取っている授業が少なかったため、同期内でも話すことが少ない人もいましたが、今年から教室内に全員がいるため自然と話す機会も増えたと思います。また今まで頻繁に話していた人の新たな一面も見ることができ、今後も仲を深めていきたいです。また旭町キャンパスでの授業になり、授業の内容も専門性が少し高くなりました。1年の時は授業を自分で選択していたため、必修の授業だけでなく自分が受けたい授業や文系科目の授業も多く取れました。2年生になってからは人の身体に関することが多くなり、徐々に専門性が高くなっているのを感じます。自分は高校の時に生物の授業を受けていたのもあり、ある程度は知っているつもりでしたが、やはりすべてをカバーできているわけではないので頑張らなければならないと思いました。今はまだ口腔内や歯について詳しく勉強しているわけではなく、国試に直接出る内容でもあるのでしっかり勉

強したいと思います。

2つ目は部活についてです。学年が上がって、まだ2年ではあるものの部活の運営をする立場に徐々になってきました。高校までとは異なり、大学の部活では自分たちで日程の調整や予算の管理をしなければならず、しっかりと管理しなければ部活全体の運営にかかわることばかりなので、上の学年になるにつれて部活全体を見て活動しなければならないと思いました。また部活の顧問の先生方へ連絡する際の礼儀も学ばなければならないと感じました。電子メールで先生方とやり取りする際の書き方や、お話しする際の態度にも当たり前のことではありますが、気を付けなければなりません。そういった運営や礼儀を知らなければならないというのは、自分が社会人に近づいている証拠であり当たり前身につけているべきものであるため、歯学部の先生方と接する機会が増えたからこそ今後さらに礼儀等が必要だと思っています。

まだ自分たちは2年生に進級したばかりで口腔内や歯に詳しいわけではないですが、国試に合格するためにも今から頑張ろうと思います。2年次はテストが多く、1つ1つが重いので毎回の授業を大切に、いい点が取れるよう頑張りたいです。また部活でも徐々に自分たちが中心となっていくので、後輩の見本にもなれるようにも勉強と部活の両立を大切にしたいと思います。

## 2年生の今

歯学科2年 小林 雅

わたしたち2年生はこの春無事に五十嵐キャンパスから旭町キャンパスへと移ることができました。五十嵐キャンパスでの1年間は、教養科目や他学部向けの講義を取りながら、部活やバイト、遊びなどそれぞれがやりたいことに時間を費やし、あっという間に終わってしまいました。そして4月からは新たな環境であることに加え、学年に新しい仲間が増え、自然と気持ちも入れ替わり充実した日々を過ごしています。

キャンパスが変わり、この4月からは様々な変化があります。なかでも旭町キャンパスにきて一番の変化はやはり講義の内容です。講義で学ぶ内容が教養科目から専門科目に変わり、昨年に比べると講義の時間も増え、加えて予習復習のためにも勉強に割く時間が大きく増えました。基礎科目とはいえ、歯科の専門性が高くなり、はじめは理解すべきこと、覚えるべきことの多さに驚きました。しかし、講義の中で先生方から、学年が上がってから受けるCBTや国試にも出題されることや、臨床とどのように関連しているのかということを知ると気持ちが引き締められ、2年生の今から、しっかり積み上げていかなければならないと感じています。そのような中で、日々の授業後や試験前の休み時間・放課後には、それぞれわからないところを教えあったり、問題を出しあったりといった姿が多くみられ、意識の高い仲間たちに刺激をもらうことができます。加えて、部活などで交流のある先輩方に、試験の形式や勉強の仕方など、多くのアドバイスをいただいて、何とかこれまでの3か月を乗り切ることができました。

しかしながら、私たちはまだまだ歯学部生として専門科目を学び始めたばかりで、これからも身に付けるべきことはたくさんあります。いまでも試験勉強やレポートに追われて逃げ出したくなることもあります。学年が上がれば上がるほど勉強や実習、部活の運営など忙しくなると聞きます。それでも、大変そうな様子を表に出さず、やるべきことをしっかりとこなして何事にも意欲的に取り組む先輩方の姿を見ると、改めて先輩方の偉大さを実感しますし、自分もそうなりたいと思います。

また、この4月からの変化に後輩ができたということがあります。昨年1年間は、頼りになる先輩方に甘えっぱなしでしたが、今年は後輩たちが見習おうと思えるような姿を見せられるように、そして昨年先輩方から学んだことを伝えていけたらと思います。

最後に、これからも同学年の仲間たちと助け合いながら、よい歯科医師となるべく、勉強にも課外活動にも励みながら、楽しんでいきたいと思っています。



# 歯学部生の今

歯学科3年 坂田政貴

歯学科3年生の坂田政貴です。僕たち歯学科52期はこの春、新しい仲間を加えて3年生へと無事に進級することが出来ました。3年生も早いもので、本日4回目の口頭試問を終えて、長かった人体解剖学実習も残すところあと一回となりました。昨年白衣を着て、解剖室へ向かう先輩を目の当たりにして、不安と同時に尊敬の念を抱いていたことが思い出されます。

前期で最も印象に残っていることとして、例年先輩方も挙げられているように人体解剖学実習が挙げられます。実際に御献体を前にしていくと、昨年2次元的であったものが複雑に絡み合い、組み合わさり3次元的に構造をなしていることに驚きました。そして当然のことながらその中には、個体差などの差異が存在しており、暗記に頼った知識だけでは通用しないことを痛感しました。もちろん知識を持つことは重要ですが、それを如何に目の前にある事象や、今まで学んできたことと結びつけていくのが重要であるかを学びました。

また、数年前まで僕は看護師として勤務していました。当然のことながら、当時は入院されている方の治療やQOLの向上を目的に看護業務を行っていましたが、中には亡くなられる方も少なくなく、一晩で何人も看取ることもありました。とてもやりがいがある一方で、死をとても間近に感じる職業でもありました。そのため人体解剖学実習を通して、久方ぶりに人の死と向き合うこととなり、とても身が引き締まる思いがしました。入学試験の際に「医療の限界は患者が死ぬことである。」と面接官だった宮崎先生が仰っていたことが思い出されました。個人的には人体解剖学実習を通して、人の死や御献体となることを発意された方々の尊厳などが最も印象的であり、今後医療人として真摯に人と接していかなく

てはならないと自覚させられました。

3年生となり人体解剖学実習と同時に、「歯科〇〇」と「歯科」を冠する授業が増えてきました。昨年度までと異なり、どんどん専門的な科目が増え内容の濃さも一段と増してきております。それに従い、一步ずつですが歯科医師に近づいているように思え、嬉しくもあります。早期臨床実習Ⅱでも、1年次の実習の時よりも少しずつですが分かるが増えてきました。

ところで、多忙を極める中であっても、なんだかんだやってこられているのは周りの環境に恵まれたからだと感じさせられます。家族は言わずもがなののですが、特に同じ状況の中で一緒に頑張ってくれている友達の影響が大きいです。今年度も既に数回の試験が実施されているのですが、その度に深夜までファミレスに集まり夜な夜な勉強したりと、一人では決して上手くいかない事も、周りの人に教えてもらったりと助けをもらいながらなんとかやってきています。僕たち52期はその点はとても上手く機能しているように思えます。半年も経てば学生生活も折り返しに差し掛かります。学年が上がっていても、みんなで楽しく充実した学生生活が送れるよう、感謝の気持ちを忘れずに日々を過ごしていきたいです。



# 3年生の今

歯学科3年 山田果歩

憧れの旭町キャンパスに来てから早一年、気が付けば3年生になっていた。先輩に「解剖頑張ってくださいっ！」なんてのんきなことを言っていたところが懐かしい。この原稿を書いている今、通りかかった後輩に言われた。「先輩、解剖頑張ってくださいっ！」

そうだ、解剖だ。私たち3年生の生活は解剖学実習を中心に回っていると言っても過言ではない。今は、実習の終わりが近づいてきた7月あたまであるが、4月・5月は中々ハードであった。慣れない作業と想像以上の力仕事に皆疲労困憊といった状態で、手元はペンホルダーのまま固まっていた。しかし、ひとたび実習が始まれば皆真剣そのもの、目をかっぴらいてひたすらにピンセットを動かしていた。某医療ドラマの女医はどうしてこんなにも目を見開いて手術をしているのか疑問を抱いていたが、なるほど、自然とそうなるらしい。徐々に実習にも慣れてきた6月、実習後に班のメンバーで晩ご飯を食べに行くことが恒例となった班もある。実習の方はいよいよ頭頸部に差し掛かった。それはそれは複雑である。そんな時には、メンバー同士のコミュニケーションが非常に重要だと感じる。各々が、予習してきたことや実習中に得た知識をいかに共有できるか、各班で試行錯誤しながら口頭試問を乗り切ろうとする様子が見られる。我が8班の様子を紹介すると、担当個所の剖出を終えた者が「○○を説明しま

す！」と一声かければメンバー全員が手を止め、実習書片手に頭を突き合わせて確認している。不思議なことに、こうして皆で確認すると1人で勉強しているときの何倍も頭に残り、理解が深まるのである。また、私の個人的な感想ではあるが、表情筋の研究をされている医学部の大学院の方のご指導の下、表情筋の剖出を行ったのが大変印象に残っている。表情筋の付き方は人それぞれで、一人一人笑顔の作り方が異なる理由が良く分かった。この人はどういう笑顔だったのか、想像しながら解剖をしているとその方はおっしゃっていて、そうした想いを持って研究をされている姿が素敵だと感じた。

こうした経験を経て、7月に入った。もうすぐこの実習も終わろうとしている。思い返せば実習が始まる前は大変ドキドキしていたが、ここまであっという間であった。この原稿依頼をいただき、4月からの解剖学実習を振り返ってみて、本当に貴重な経験をさせていただいているということに改めて実感している。実習での経験や学びをこれから先、大切にしていきたい。最後になるが、我が8班ののんびりペースに合わせて、遅くまでお付き合いいただいた女神のような先生をはじめ、本実習でお世話になったすべての先生方にこの場をお借りしてお礼を申し上げたい。本当に、ありがとうございました。

# 4年生の今

歯学科4年 齋藤瑠郁

こんにちは。歯学科4年齋藤瑠郁です。自宅から大学まで約45分間、部活代わりの自転車登校も4年目、もう当たり前のことになりました。周りの友人たちは3年後期のテスト続きの1ヶ月の方が辛かったと言いますが、私にとっては、皆で集まってあれこれ議論しながら勉強したあの時よりも、週2日とはいえ一日中実習室で過ごす日がある今の方がずっと大変だと感じます。自分はこんな調子で今後やっていけるのか、と実習の度に不安になります。不安や大変さを表すかのように、立て続けに風邪をひき、肌荒れは治らないまま。高田のお花見も、GW恒例だった高校時代の部活の手伝いも、ムロツヨシ出演の映画も、話す時点から興奮する焼肉も、気づけばここまで全然行くことができいていません。唯一、色々な美容室を巡っては、ロングが見たいという友人の意見に逆らってショートヘアをさらに短くしているくらいでしょうか。

さて、本当は面白いページを作りたいと考えていましたが、ここからは少し真面目に、「歯学部生の今」を書きます。現在私たちは月曜日に歯冠修復学、水曜日に有床義歯学の実習を行っています。楽しいというより大変だと感じます。体力には多少自信があるので体力面ではなく精神面で、です。去年の方が、と言う周囲からは不思議がられますが、とにかく言えることは実習が苦手だということです。実習中コツを見つけるのが人より遅く、また、コツを自分のモノにするのも遅いと感じます。先生方が用意してくださるデモ動画を見たりテキストを読んだりして、その日の工程や注意事項を予習してから実習に臨むのは当然です。しかしいざ実習が始まると、自分の不器用さや効率の悪さが、予習で頭に入れた知識や理解の量をはるかに越えていることに落胆します。また、去年より増えたグループ学習も、成功も失敗も自分

だけの話ではなくなる分個人学習より大変だと感じます。グループ学習では互いに知識を共有し深められるため、とても有意義な時間になるはずですが、すでに複数のテーマで行なってきましたが、自分の知識不足から、有意義な時間かと言えば譲れないところがあります。

ここまでの話を含め残念ながら今のところ色々な事がうまくいっているとは言えません。それでも、そうだからこそ、頑張ろうと思えます。今までも何かと人よりうまくいかないことが多かったおかげか、私は自分のことを諦めが悪く努力は得意だと思っています。また、それを認めてくれる人も周囲にたくさんいると思っています。尊敬している先生がよく仰る「皆さん必ずできるようになります」を信じて決して諦めず努力していきます。

最後に。このページを読んでも実習の様子からもクラスの皆が分かっている通り私は全く器用ではありません。ぜひたくさんのアドバイスをください。代わりに、ではありませんが、自分の得意な分野を見つけて、助けられるばかりではなくクラスの役に立てるよう努力します。大きな事件も起きない平凡な、けれど毎日一緒に過ごすのが楽しい、そんな歯学科4年生が大好きです。これからもよろしくお願いします。立派な歯科医師になれるようお互いに高め合っていきましょう。



# 歯学部生の今

歯学科4年 渡部 清人

早いもので、我々51期生が新潟大学歯学部に入学してから3年半が経ちました。学年は4年生となり、1年生のころのようなフレッシュで、希望に満ち溢れていた自分は、もういません。毎日、勉強やアルバイトに励み、また、部活動等では幹部学年として部をまとめなければならず、皆、心身ともに疲弊し、彼らの目に輝きはありません。そんな慌ただしい今日この頃です。

そんな中、本格的に実習も始まったことで、これまでの座学のように受動的なものとは異なり、自ら考えながら能動的に考え、行動する機会が増えました。実習と座学の一番の違いは予習の重要性という点にあると思います。予習は、座学の講義においても非常に重要であることは間違いありません。しかしながら、実習においては予習ができていないとその日の実習で何をしたいか、またその行為に何の意味があるのかということが全く分かりません。講義時間という決められた時間の中で、決められた量の作業を終わらせるためには、予習が不可欠なのです。講義に関しても、4年になり各科目の専門性がこれまで以上に高まりました。より臨床を意識したものとなり、これまでの知識を詰め込むだけでよかった学習と同様に受け身の姿勢で授業を受けていても根本的な理解にはつながらず、授業で出てきた疑問点を見出し、自分なりに調べることはもちろん、レジュメや教科書に書いてある事実に関して、なぜその事象が成り立つのかということについて、今まで蓄えてきた知識で説明できなくては根本的にわかっているとは言えません。これまで学んできた解剖学や生理学など、歯と直接的に関係ないと思っていた基礎的な知識も、知らなければ授業を

完全に理解することは難しく、3年生までに学んできた科目の重要性を今更になって痛感しています。そのおかげで授業の復習に割く時間は増え、睡眠時間は減る一方です。皆、眠い目をこすりながら授業を受けています。

さて、今年もそろそろオールデンタルの時期がやってきました。各部活、デンタルに向けて練習を頑張っています。私はバレーボール部の一員として7月31日から鹿児島県に行ってきます。九州地方に赴くこと自体が初めてなので、バレーボール以外にも観光など楽しみがたくさんです。今年は4年生ということで、各部活口腔生命福祉学科の同級生が引退します。バレー部には僕を含め、4年生が3名いますが、僕以外の二人は口腔生命福祉学科なので、二人は今年で引退しています。引退してしまう2人と臨む最後のデンタルを思い切り楽しんできたいと思います。

このように、我々は、勉強や部活動などで忙しくも充実した毎日を、素晴らしい仲間たちとともに、支えあいながら戦い抜いています。

毎日一歩ずつ歯科医師に近づいていることを自覚し、学業に精進したいと思います。



# 5年生の今

歯学科5年 山本 静香

はじめまして。歯学科5年生の山本静香です。「歯学部生の今」がテーマということで、今回は5年生のカリキュラムについて紹介させていただきます。

編入学から早くも2年が経ち、5年生の今、実習やCBTの対策などに追われ、気がついたら3ヶ月が過ぎていました。新潟大学では4年生までに大方の臨床科目の講義が終わり、5年生のカリキュラムではそれぞれの知識を統合し体系化を行うことが主眼に置かれています。それぞれ特徴的な科目について紹介させていただきたいと思います。

まずPBLについてです。クラスを6グループに分け、各グループごとにシナリオの症例について討論し、検査結果や所見から仮説を立て、学習課題を設定しその課題について自主学習をして再度討論といった流れです。この科目の面白いところは、各グループの討論の方向性や内容によって、仮説・学習課題が変わるということです。グ

ループで話し合うことで、理解や知識が足りない部分が明瞭となり、その部分について学習をすることで、各分野の知識を集積し患者さんの訴えや問題を分析して、解決に導いていく能力が身についていると実感しています。

次にポリクリについてです。班ごとに各診療科を周り、その診療科独自の実習を行なっています。このポリクリの最も大きな特徴は、相互実習を行うことです。これまで模型上で行なっていたこと、この先臨床で行うことをお互いの生身の身体で練習していきます。伝達麻酔、浸潤麻酔、採血など、痛みや侵襲を伴うことも相互に行なっていきます。そのため、これまでとは比べものにならないほどの緊張感があり、予習にも力が入ります。実際に友人の口腔内や身体に触れてみると、模型実習では分からなかった、唾液、舌の動き、体動、痛み、言葉遣いや目を見て話すといった接し方、どのくらいの時間口を開けていられるかを感じ学ぶことができます。また自分がされる側に



なると、患者さんの気持ちがとてもよくわかります。この経験は確実に臨床実習に活かされていくと感じています。

5年生の夏には、大きな関門であるCBT、OSCEが控えています。基礎科目から臨床科目まで全ての科目が範囲になっているので、3年生の頃の授業ノートを見返す機会も増えていますが、そこには《CBTに出やすい》などのメモがありました。当時は意識していませんでしたが、先生方はCBTや国家試験を見据え指導してくださっていたということを感じ、大変有り難く思いました。4年生以下の皆さんは、まだまだ先のこと、と思っているかもしれませんが、今自分たちがしている勉強は必ずCBTや国家試験、その先

の臨床に繋がっているということ意識し学習し、一つ一つの授業を大事にしてもらえたらと思います。

また、学年担任である摂食嚥下リハビリテーション学分野の先生が中心となり、CBTへ向けた事前指導も始まりました。私たちの班では定期的に面談を行い、進捗状況の確認などを行っており、とてもいい刺激になっています。国試の問題の解説と解答の導き方なども指導していただき、CBTだけでなくその先の国家試験にむけてモチベーションを高めています。CBTに向けて個々の勉強はもちろんのこと、クラスで一丸となって取り組み、全員でCBTに合格し、秋から始まる臨床実習に臨みたいと思います。





# 5年生の今

歯学科5年 園 辺 悠

歯科の知識をほとんど持たずに入学してからはや5年。想像していたキャンパスライフの偶像是すっかり消え失せ、日々勉強と部活の毎日です。いまではほとんどの臨床系科目の講義も終え、半年後には病院に立って歯科治療を行うという立場になりました。

5年生の前期では総合的な学習や実習がほとんどを占めるのですが、そのなかでも大きなウエイトを占めているのは総合模型実習とポリクリ（臨床予備実習）だと思います。

総合模型実習では様々な疾患を想定した顎模型を用いて半年間かけた治療を行います。今までの実習では個々の歯に対しての治療しか意識してこなかったものが、治療手順や治療方法、それに関しなければいけない時間といった、実際の臨床では必ずぶつかるであろう問題を意識しなければいけなくなり、それを踏まえた実習を行わなければなりません。手際の悪さのせいか期間内に想定した治療を終わらせることができるか不安ですが、臨床実習に出る前の最後の練習だと気を引き締めて実習に臨みたいと思います。

ポリクリでは、グループごとに各診療科を回り、主に相互実習などを行います。相互実習の際は、スケーリングひとつ取っても「痛くないだろうか」「なにか傷をつけてしまってはいないだろうか」と緊張し、いままでいかにマネキンに対して雑に扱ってきたかを痛感させられています。また実際に生身の人間に触ることで清潔・不潔を常に意識するようになりました。近年特に衛生について社会問題になっているので意識した実習を行なっていきたいです。

また、ポリクリの最後にはCBTとOSCEが待っています。今まで遊び呆けていた土日や放課後が一変し、友人とともに図書館に籠る日常になってしまいました。今までの講義を総復習することに

なるのですが、意外と記憶に残っているもの、学習した記憶はあるものの全く覚えていなかったものなどを再発見することができ、また友人と勉強することでお互いが問題を出し合い、分からないところを教えあいとても有意義な学習ができています。友人と勉強しているといつのまにかスマホアプリを起動し、勉強時間が削られてしまうのが玉に瑕ですが…(笑)当時は教科書上での知識でまいちぼんやりとしていたイメージも、実習を経たことで納得や理解できるものが多くあり、より深い学習が出来ていると感じています。

私たちの学年はなぜか様々に先生方に心配される学年のようです。そんな下馬評を覆し、半年後には最高の学年だったと言われるよう、一丸となって目の前に迫るCBTやOSCEを突破していきたいと思います。

入学時にはとても長い時間を感じられた6年間の大学生活も3分の2以上を終え、CBT、OSCE、臨床実習や国家試験を残すのみとなりました。のこり少ない学生生活を謳歌しつつも、歯科医師になるための知識や技能を習得するため、一つ一つの実習や経験を大切に日々精進していきたいと思います。



ポリクリ登院式にて

# 歯学部生の今

歯学科6年 川 勝 あかり

新潟での6度目の夏を迎えます。早いもので、気が付けば最高学年となり、卒業まで残り半年に迫っています。

私たちの日々の生活は、臨床実習を中心に回っています。朝は8時ごろに登校し、9時からお昼を挟み16時までは診療、または係の仕事、口腔外科などの専門診療科での分散実習を行います。その後は技工室で診療前のレポート作成や技工物製作などを行い、20時近くまで学校にいることも少なくありません。本当にこの治療でよいのか、もっと良い方法があるのではないかと…知識も技術も不足する中で治療方針を考え、当日の診療の予習をし、診療後反省をするといった生活で日々が過ぎていきます。今の担当の患者さんを見るようになって早くも10ヶ月が経とうとしています。それぞれの患者の経過を追っていく中で、生活習慣や性格、口腔内の状態などによってTBI一つとってもどの様に指導すれば良いか一人一人異なることを実感しています。たった一年間ではありますが、患者さんの生活背景も踏まえて口腔内全体の経過を追うことができるのはとても良い機会だと感じています。臨床実習は患者さんを担当させていただくことから責任が重く悩むことばかりですが、やはり患者さんの嬉しそうな顔を見ることができたり、感謝の言葉を頂けるとやりがいを強く感じます。忙しい日々ではありますが、恵まれた環境で臨床実習を行え、充実した毎日を送っています。

一方で臨床実習中に不安なのは、国家試験の勉強とのバランスが上手く取れていないことです。勉強をしなければならないことは理解していますが、毎日の実習やレポートに追われているというのが正直なところではあります。私たちの学年は、クラスを5人ずつのグループに分けて学習グループを作成しています。私の班は週に1回ほど集まり、勉強会を開いています。班により取り組み方はそれ

ぞれですが、お互いの進展状況を確認する良い機会となっています。

6年目にして、日々の生活の中で同級生の存在がとても大きいことを実感しています。朝早くに技工室に行くとならぬと技工用バキュームの音が聞こえ、技工物を製作している人がいたり、難しい症例を担当し頭を悩ませている人がいたり、そういった同級生の姿に自分も頑張らないかという思いが強くなります。ここ最近は同級生同士で誰からともなく研修やその後の進路についてなどの話が多くなってきて、病院見学で欠席している人もちらほらと見受けられます。また学内でも各医局の説明会が毎週のように開かれており、卒業後のことが現実味を帯びてきました。それぞれ目指す道は異なりますが、各自がどのような歯科医師になりたいか目標を持ち始めています。6年間ともに過ごしてきた仲間と離れ離れになるのは寂しいですが、5年後10年後仲間たちの活躍を聞けることを楽しみにしています。

最後になりますが、この1年は学生最後の1年となります。実習に勉強に、将来への不安も多いですが、同期と過ごすことのできるこの1年間を悔いのないようにしていければと思います。残すところ、臨床実習は約2ヵ月、学生生活は約7ヵ月。初心を忘れずに一日一日精一杯勉強させていただきたいと思っています。



# 6年生の今

歯学科6年 宮城 一 真

平成が終わる最後の一年というこの機会に、私達も新潟大学の歯学部生として最後の一年となりました。5年生の秋から始まった臨床実習も、もう夏が明けると2ヶ月しかなく、昨年の秋に患者さんを目の前にドキドキしながら診療に立ったことが昨日のこのように思えるほど早く、また、懐かしくも思えます。新潟大学では1年間の臨床実習を通して、指導医の先生のもとに患者さんの診療に携わることができます。治療計画の立案から、診療、メンテナンスまですべて自分で考え、自分で行います。5年生までで学んできた講義や実習での知識をフル活用し、どのようにより良い診療をできるのか、患者さんのことを考えて診療ができるのか直接感ずることができる貴重な時間です。患者さんが目の前におられるからこそ、先生方の目も基礎実習の時よりも厳しくなり、私達も緊張感を持って日々診療に臨んでいます。その臨床実習も昨年の10月に先輩から患者さんを引き継いでから、もう自分が次の学年へバトンを渡す時になりました。

3月にSVプログラムという短期留学に参加し、スウェーデンのマルメ大学とWHOに約2週間派遣していただきました。マルメ大学の学生実習と一緒に参加し、アシストを行うなどしました。新潟大学において日々臨床で学んでいるからこそ海外の学生と遜色なくアシスタントとしての仕事を行うことができました。いかに新潟大学での実習が充実しているか実感することができました。

後輩へバトンを渡した後は、春に待ち構える国

家試験に向けてひたすら勉強に明け暮れる日々です。合格するとようやく歯科医師としてのスタート地点に立つこととなります。今までは先生の下で行ってきた患者さんへの治療や、口腔内疾患の予防など、すべての仕事をこれからは、自分で考えて行うことになり、大きな責任感とともにやり甲斐も生まれると思います。病院の診療ユニットに入ると、いつも背筋が伸びます。自分が中途半端な心構えで診療をすることは、何よりも患者さんに対して失礼です。それは患者さんの為の医療行為だからです。自分の診療に時間を割いてまで来てくださる患者さんの協力があってこそ、成長させていただいているのだと常に感じます。

その重みと、責任と、慕ってくださる患者さんの思いに応えるためにも、今の時間を充実したものにし、卒業まで駆け抜けたいと思います。卒業までの残り少ない時間を仲間たちと一緒に過ごし、励まし合いながらクラス全員で国家試験に合格ができるよう頑張ります。



# 歯学部生の今

口腔生命福祉学科2年 山下綾菜

口腔生命福祉学科2年生として旭町キャンパスに通い約3ヶ月が経ち、1年生のころには週に1回しか通うことのなかった歯学部の構内にも慣れてきました。一年生の頃は自由に使える時間がとても多く正直ゆるゆるとした生活を送っていましたが、二年生になり毎回課題やレポートが課され一年生の頃とは比べ物にならないくらい生活が忙しくなりました。しかし、歯科の専門的な講義が始まって初めて知ることばかりの日々を送る中で歯学部生としての自覚がより身に付き、私生活が充実するようになりました。最近では実習前の実習器具の確認を行いました。スケーラーやプローブ、デンタルミラーなど今までは歯科医院でしか見たことのない器具を自分専用のもので持つことがとても嬉しく、後期からの早期臨床実習へのモチベーションが上がり楽しみになりました。

他にも、ワックス棒から歯の形へと型取っていくカービングの実習を行い、その実習では歯の形態的な特徴について学ぶことができました。今まで歯はほとんど同じ形なのだろうと思っていましたが、しっかりと観察することでその歯が上下左

右どこに位置しているのかを判断することができくらいそれぞれの歯に特徴があり、役割ごとに形が変わっているのが興味深いと感じました。

また、私は歯学部バレーボール部にマネージャーとして所属しています。マネージャーの仕事は基本的に球出しと球拾いしかしませんが、プレイヤーのみんなに混ざってウォーミングアップやパスの練習を一緒にさせてもらうなど部員みんなで楽しく活動しています。バレー部は部員数が少ないのですが少ないからこそ先輩後輩関係なく活動でき雰囲気の良い部活動ができています。また先輩方から授業やテストについてのアドバイスをいただくことができ事前にすべきことや実習の心構えをすることができ縦の繋がりの大切さを感じています。

先日、二年生になって初の口腔生命福祉学科の親睦会を開きました。一年の頃にはあまり話したことがなかった人とも話す機会が増え、今まで知らない人柄を知ることができ口腔みんなの仲がより深まったと感じました。これから約三年間一緒に学校生活を歩む仲間たちなので切磋琢磨してともに励んでいきたいです。



# 歯学部生の今

口腔生命福祉学科3年 白倉未唯

私は今年の春で歯学部に入學してから2年がたち3年生になりました。3年生になり、変わったことは歯科の実習が増えたことです。2年生の頃は、講義やPBLが中心で相互実習が少しあるだけでした。しかし、3年生になると相互実習の回数が増え、実習が中心となりました。また、春に行った幼稚園での歯科保健指導や、夏に行った病院実習、そして冬に控えている保健センターでの実習など、学生同士での実習だけでなく、実際に人と関わる実習が増えたと感じています。特に、幼稚園での実習はとても印象に残っています。この実習では、みんなで園児に対しての劇や歯磨き指導の内容を考えました。園児がどこまで理解し、どうやったら楽しく取り組んでくれるのかを考え、指導をすることはとても難しく感じました。しかし、みんなで何度も練習し、本番で園児が楽しそうに劇を見てくれたり、「きれいに磨けたよ。」と自分の歯を見せてくれた時、とても大きな達成感を感じ、自分たちの指導が、人の行動に良い影響を与えることが出来ることを実感し、その喜びを感じる事が出来たと思います。幼稚園実習を通し、不安はたくさんありますが、実際に臨床に出て患者さんと関わる事が楽しみになりました。

また、3年生になり大きく変わったことは、社会福祉士の資格を取るための福祉に関する科目が始まったことです。福祉に関する講義やPBLは年金や児童手当、生活保護など複雑な制度や支援などが多く、またそれらを覚えなければならないのでとても難しく、大変だなと毎日感じています。しかし、2年生までは歯科にしか興味がありませんでしたが、春に行った特別養護老人ホームや児童相談所での実習、授業中に見るビデオなど

を通し、自分自身の知識の少なさや、知っていたつもりでいた問題の複雑さや重要性を認識するとともに、福祉にも興味を抱くようになりました。また以前と比べ、様々な問題に対する考え方が変化したと感じ、より身近な問題と捉えることが出来るようになったと感じています。最近では講義に関しては、難しく感じることはありませんが、興味を持ち、身近な問題として捉えることで、講義の中に少しずつ面白さを感じる事が出来るようになってきました。

3年生になり、歯科や福祉の実習や、国家試験のこと、将来自分がどこでどのように働くかなど様々な不安や悩みごとを感じる事が増えました。先生方に支えられながら、病院や福祉の実習に備えて、勉強をし、実際に行動に移す事が出来る知識を身につけなければならないと感じています。また勉強を頑張りながら、編入生が加わった愉快的な25人で残りの学校生活1日1日を楽しみながら充実した毎日を過ごしていきたいと思っています。



# 歯学部生の今

口腔生命福祉学科4年 増澤美有

これまでは教室の窓から眺めているだけであった外来棟へと続く廊下を歩いていると、とても不思議な気持ちになります。今年度の初頭までは、ユニフォームを着て患者さんを目の前にしている自分の姿を想像することができなかったからです。4年次から本格的に始まる病院実習への不安を抱きつつも、まだ先のことであるとばかり考えていました。そんな私も気が付けばもう4年次を迎えていました。外来棟へと向かう途中の廊下を、「今日は何なことをするのだろう」と考えながら歩き、不安で心がいっぱいになっていると、あっという間に外来棟の入り口がみえてきます。

私たちは現在、1週間のうちの4日間を、臨床実習として外来棟で様々なことを学んでいます。これまでの2年間で学んだ知識や技術を用いて、診療のアシストや患者さんへの保健指導、そして、実際に自分が術者となって予防処置を行うこともあります。また、このような実習を終えると、ポートフォリオを作成しています。このポートフォリオでは、その日の診療の内容や、その際に自分ができたことや、逆にできなかったことをまとめます。すると、毎日の実習を終える度に、自分自身の課題がたくさん見えてきます。その度に、自分の知識不足や技術不足を痛感し、それと同時に、その課題を乗り越えなければいけないという気持ちが奮い立たされます。しかし、その課題を解決しようとする、自分の目の前には、学習して身に付けるべき知識や技術が山積みであり、そんな現状にまだまだ戸惑う毎日です。3年

次にも、臨床実習として、外来棟へ行き、見学をさせていただいていました。しかし、4年次のこのような経験を通し、半年前の自分が、初心者であることを前面に出して、その当時の4年生に頼り切っていたことを振り返ると、どれほど自分が甘い考えをしていたのかということを知りました。非常に反省をしています。

さて、その臨床実習の傍らでは、福祉実習が行われています。これがこの学科の4年次における大学生活のもう一つの特徴と言えます。この福祉実習は、ソーシャルワークが実施されている様々な施設において、1カ月間の実習を行い、ソーシャルワークの実際を学ぶことを目的として行われます。私は、福祉について学習するまでは、対象者をその時点の姿でしか捉えようとしていませんでした。ですが、対象者一人ひとりがどのような生活歴を持ち、その経験から、どのようなことを大切に、価値観を持っているのかというような、その人のバックグラウンドを知ることのソーシャルワークにおける重要性を学びました。そして、現在行われている福祉実習において、これを重要とする理由を体験的に学んでいます。

最後になりますが、現在は、臨床や現場での実習に追われる毎日で、その中では、上手くいくことよりも、そうではないことの方が圧倒的に多く、自分の未熟さを日々感じています。ですが、自分を支えてくださるたくさんの方々への感謝の気持ちを忘れずに、日々成長していけるように、有意義な学生生活を送りたいと思います。